



広島県の紹介

広島大学病院 緩和ケアチーム

医師	難波	将史
看護師	中山	満誉
看護師	重山	千恵
薬剤師	宮本	佳奈



広島県内の情報

<ul style="list-style-type: none">• 総人口 (総務省から公表された「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和4年1月1日現在)」に基づいて算出)	2,788,687人 (前年比 -23,790人)
<ul style="list-style-type: none">• 高齢化率(65歳以上) (総務省から公表された「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和4年1月1日現在)」に基づいて算出)	29.6% (前年比 +0.4%)
<ul style="list-style-type: none">• R2年 がん患者死亡者数(人口10万人対死亡率) (R2年人口動態統計年報第49報より)	8111人(295.3)
<ul style="list-style-type: none">• がん診療連携拠点病院数(国指定/県指定)	13施設 (国指定12/県指定1)
<ul style="list-style-type: none">• 緩和ケア病棟のある施設数(病床数)	13施設(259床)
<ul style="list-style-type: none">• 在宅療養支援診療所数	528

- **都道府県の特徴(自由にご記載ください)**
広島市中心部は緩和ケア病棟や在宅支援が充実していますが、県北などは支援が少なくなっており、地域差があります。

都道府県がん対策推進計画に記載された 緩和ケアに関する主な目標や取り組み

1. **がんと診断された時からの緩和ケア**
 - 1) **診断時からの緩和ケアの推進**
 - 2) **施設緩和ケア**
 - ・患者や家族の意向に即した緩和ケアの提供
 - ・施設緩和ケアの質の向上
 - 3) **人材育成**
 - ・基本的な緩和ケアに携わる人材の育成・確保
 - ・専門的な緩和ケアに携わる人材の育成・確保
 - 4) **緩和ケアに対する正しい理解**
 - ・県民や医療従事者の理解を深める取り組み強化

都道府県内の緩和ケアに関する重要な 課題・問題

- 病院内や病院・地域間でACPに関する情報共有や連携ができていない
- 緩和ケアの提供に地域差がある
- 拠点病院間で緩和ケアの質向上に向けた取り組みは実施しているが、県内の拠点病院以外の緩和ケアの質向上に関する取り組みは実施できていない

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

1. がんと診断された時からの緩和ケア

- ・苦痛のスクリーニング実施：苦痛の拾い上げを強化するため、入院時がん患者全員に実施している。今後、外来患者に拡大予定である。
- ・がん患者に「緩和ケア」のパンフレットを配布し啓蒙活動を行っている。

2. 緩和ケアの提供体制

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア外来の整備
- ・看護外来実施：IC同席（がん患者指導管理料イ・ロ算定）
- ・緩和ケアリンクナース活用：院内の基本的緩和ケアについて質向上を図るため、「苦痛緩和」「STAS-J」「エンゼルケア」等の講義や事例検討を実施している。
- ・病棟・外来の看護カンファレンスに参加し情報共有・看護ケアについて検討している。

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

3. 緩和ケアに対する正しい理解

- ・院内に広報（ホームページ・ポスター掲示）
- ・症状緩和のマニュアル作成
- ・ポケットマニュアル、オピオイド換算表作成
- ・人材育成（緩和ケア研修会PEACE、フォローアップ研修）

4. 地域と連携

- ・在宅緩和ケア研修会：近隣のがん拠点病院と連携し定期的に地域と事例検討会、カンファレンスを実施している。
- ・緊急緩和ケア病床確保
在宅医支援のため、緊急時の患者受け入れを1床確保。
入院期間は1週間を目途とし当院主治医が対応し緩和ケアチームが介入しサポートを行っている。

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

5. PDCA

広島県がん対策推進計画に基づき実施。

拠点病院間で質向上に向けた目標や取り組みについて共有している。

6. 緩和ケア実地研修受け入れ

各施設における緩和ケアチーム活動の質を向上させるために、それぞれの職種が緩和ケアに関する専門的知識や技術の習得を図り、より質の高い緩和ケアを実践している。

都道府県内の緩和ケアを進めるために 今後取り組みたいこと・検討したいこと

● 院内・県内のACP普及

広島県は医師会が中心となり、地域でのACPの重要性が認識されている。しかし実際に病院内や病院・地域間で情報共有や連携ができていない現状がある。

拠点病院と地域が患者のACPを共有できるよう、緩和ケアチームが体制を整え、周知する必要がある。

都道府県内の緩和ケアを進めるために
今後取り組みたいこと・検討したいこと

● 院内のACP普及

院内でACPに関する知識の向上を図る。

- ①緩和ケアチーム内の勉強会を行う。
- ②病院内で多職種を対象とした研修会を実施する。

● 県内のACP普及

県内のがん拠点病院・地域（往診医・訪問看護ステーション・訪問薬局）と、ACPの取り組み・緩和ケアの質向上にむけた取り組みについて相互評価・情報共有を行う。

広島県 実施計画の概要立案

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画) フォローアップ研修

都道府県内の緩和ケアの現状

都道府県内の緩和ケアに関する課題・問題

- 広島県は医師会が中心となり、地域でのACPの重要性が認識されている。
しかし、実際に病院内や病院・地域間で情報共有や連携ができていない現状がある。
 - 拠点病院と地域が患者のACPを共有できるよう、緩和ケアチームが体制を整え、周知する必要がある。
-

都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

都道府県単位の取り組みで目指したいこと(ゴール)

がん拠点病院がACPに関する勉強会を実施する。

都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

・広島大学病院でACPに関する研修を実施する(2回/年)

講義形式+グループワーク



各拠点病院へ広げる(Web形式)

企画概要

企画名

広島県がん診療拠点病院ACP普及研修会
～「もしものとき」に寄りそうことができますか～

目的

ACPの普及

目標

県内のがん拠点病院が独自でACP研修会が実施できるようにする

対象者・人数

対象者:がん診療拠点病院の医療者(医師、歯科医師、看護師、薬剤師)
人数:20人程度

開催期間・時間・開催形式

半日間 13:00～16:00 グループワーク形式
講義はオンデマンドで視聴

実施主体

広島大学病院

プログラム

広島県がん診療拠点病院ACP普及研修会

開始	終了	時間	研修方法	内容
13:00	13:30	30		受付、プレアンケート
13:30	13:40	10	オリエンテーション	挨拶、オリエンテーション、ファシリテーター紹介
13:40	13:50	10		ACPをするうえで自身の考えをまとめる
13:50	14:50	60	グループワーク (職種別)	自施設でACPを推進するための方法
14:50	15:00	10	休憩	
15:00	15:30	30	発表	職種別で発表
15:30	15:45	15	まとめ	
15:45	16:00	15		閉会 終了後アンケート

研修の評価

【実施評価】 実施内容の適切性を評価する。

・主催者側と研修参加者の反応から評価する。

参加者数・参加率・参加者の属性、従事者数、役割分担、プログラム、組み立てが適切だったか

【結果評価】 研修前後に評価を行う

・研修前・研修終了後にアンケートを実施する。

・研修後、現場に戻ってからの対象の変化を評価する。

・技術の評価・能力レベルの評価を実施する。

【企画評価】 企画全体の適切性を評価

・現状分析・課題抽出は適切だったか

・目的・目標設定はニーズと合っていたか

・対象者の選定、プログラム構成、実施時期、周知方法は適切だったか。

セッション 「人生会議」について考えよう(仮)

日時	5月 ○日(土) 13:00~16:00
場所	広島大学病院 会議室
セッティング	椅子(人数分)
担当	広島大学病院 緩和ケアチーム
用意するもの	パソコン、マイク、資料

【目的】

ACPについて自身の考えを整理し、患者・家族に実施できる。

【学習目標】

医療者がACPについて理解することで、患者・家族と今後の希望や過ごし方について話ができる

【事前準備】

2022年2月 案内ちらし、申込みフォーム(アンケート)を作成する

2022年3月 案内ちらしを各部門に配布する。各エレベーター前に掲示する。
事前の講義(オンデマンド)を視聴できるようWebに掲載する。